

大阪工業大学工学部土木工学科 学生員 ○葉山 学
大阪工業大学工学部土木工学科 学生員 安井 友紀
大阪工業大学工学部土木工学科 学生員 小澤 尚志
大阪工業大学工学部土木工学科 正会員 岩崎 義一

1. はじめに

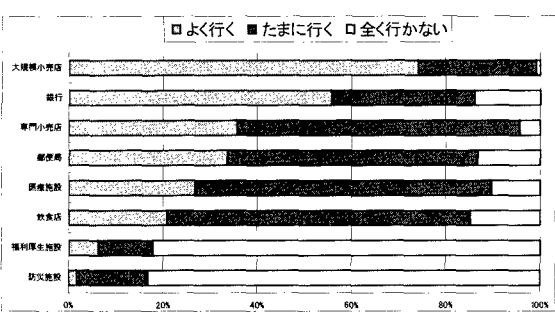
1－1. 研究の背景と目的： 南港地区では、テクノポート大阪の開発が進められ、21世紀の新しい都市核にふさわしい、文化・レクリエーション・住居等の高次都市機能が集積し、近畿・大阪都市圏の発展をリードしていく拠点としての役割を担いつつある。なかでも居住機能については、昭和50年代の整備に伴い新住々民が流入し、現在人口3万人の都市として集積が形成されてきた。そこに住まう生活者からみると新都市は既存の都市に比べて、生活利便機能の充実など固有な問題も多く存在するものと想像される。

よって本研究では、生活支援のための地域施設の充実の程度や今後のあるべき施設像を調査することによって、生活者の視点に立脚した地区整備、生活支援施設整備の条件および課題を明らかにする。

1－2. 研究方法： 南港ポートタウン内の住民にアンケート調査を行った。[実地日1999年12月5日～12日、配布数191件、回収数122件]

2. 地区外にある地域施設の利用実態

南港ポートタウン外にある施設利用についてみると、大規模小売店、銀行の利用が最も多く、医療施設・飲食店・専門小売店なども比較的多く利用されている。(図－1)

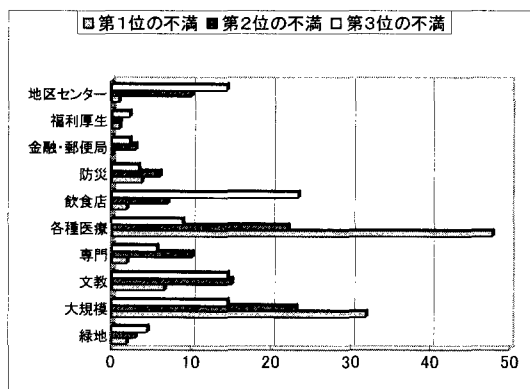


図－1 各施設の利用頻度

これを年齢別や職業別でみてみると、大規模小売店では40歳代前後の主婦、会社員やパートタイマーが、銀行で主婦や会社員が中心では高い年齢層ほどよく利用していた。医療施設では60～70歳代以上にかけて著しく多く、無職や会社員が中心であった。飲食店や専門小売店は特に20歳代が最も多く、年齢層が高まるほど利用が少なくなる傾向が見られた。会社員は勤務先の関係から、ポートタウン外で利用することが多く、予想通りの結果ともいえるが、家事などで在宅の時間が長い主婦層が外の大規模小売店や金融機関を頻繁に活用していることが特筆される。

3. 地区内施設に関する意識の分析

3－1. 地区内施設に対する不満の実態： 不満が第1位としてあげられた施設は大規模小売店と医療施設であり、第2位も概ね同じ結果であった。第3位では飲食店、文教施設、地区センターがあげられた。第1位から第3位すべてをまとめると大規模小売店と医療施設の2つが最も不満が多いという結果になる。これらを年代・職業別にみると大規模小売店では、30～40歳代の主婦やパートタイマーの層が中心であり、医療機関では年齢層が高いほど傾向が強まり、会社員、主婦、パートタイマーのほか無職があげられる。



図－２ 不満施設のリスト

表－１ 各施設の不満の内容

	施設数が 少なすぎる	施設数が あまる	駅から遠い	駐車場が 少ない	品数が 少ない	品質が 悪い	診療科目が 少ない	電報・ 対面が 悪い	不潔な である	サービス・ 対応が悪い	他の利用者の マナーが悪い
大規模	34.4	0.0	8.3	8.3	50.0	25.0	0.0	0.0	3.1	43.8	12.5
各種医療	40.0	0.0	10.0	2.0	2.0	2.0	74.0	0.0	0.0	8.0	0.0
飲食店	48.5	0.0	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
防災	55.6	0.0	27.8	5.6	16.7	5.6	0.0	0.0	5.6	16.7	0.0
地区センター	30.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0

婦、パートタイマーが専門小売店と対個人サービスに意見が目立った。これは総じて30～50歳代が中心であり、このほか60歳代の無職が対個人サービスを、70歳代以上が福利厚生施設をという意見が目立った。具体的な施設の内容をきいてみると、大規模小売店ではショッピングセンター／コンビニエンスストア、文教施設では図書館、専門小売店ではブティック／書店／肉屋・魚屋、対個人サービスではレストラン／ファーストフード店／居酒屋／喫茶店であった。

4. まとめ

以上をまとめると、主婦、パートタイマーが生活の場からはなれた場所での大規模小売店や銀行利用の高さが目立つ。これは、地区内の大規模小売店の施設数の不足だけでない理由が大きいことがわかった。また、医療施設の充実度も低いことが明らかとなった。さらに、地区センターや文教施設のサービスの低さの指摘も目立った。以上のことから、地域施設の進出数が絶対的に不足している構造で、しかもこのことが、競争を生み出さず多様な需要に応じて、質の高いサービス等を創出できない結果生んでいることも考えられる。そして、このことが、地区住民の他地区での利用、あるいは不満の増大に関係していると考えられる。実際、こうした意見が住民から多く聞かれた。(表－2)

表－２ 聞き取りによる住民の問題意識

意見	件
総合病院・救急病院などの施設がない(少ない)	12
物価が高い	12
不法駐車取締りと交通の取り締まり	4
閉店時間が早く仕事帰りに買い物できない	3
図書館がない(小さく土曜日しか開いていない)	2
品物がいつも一緒、もっとバラエティに富んで欲しい	1

く、この地域が人工的に作られ他の地域と関わりにくい等の問題が多々存在することを考え合わせると、このような地区では整備主体である行政が積極的にかつ特別に対処していくことが必要と思われる。

このほか飲食店では、40～60歳代の会社員、主婦層で多く、文教施設では50～60歳代で自営業、無職などで多かった。地区センターは50歳代で会社員、主婦、パートタイマーが中心である。(図－2)

こうした中で、不満の内容をみると、大規模小売店は「品数が少ない」、「サービス水準が低い」、「施設が少ない」という意見が圧倒的に多かった。また医療施設では、「診療科目が少ない」、「施設数が少ない」が主な内容となっている。このほか飲食店、文教施設では、「施設数が少ない」、地区センターでは「サービス水準が低い」、「家から遠い」等の内容が中心であった。(表－1)

3-2. 今後整備を望む施設

新たに設置を望む施設は、大規模小売店が著しく高く、次にレストラン、スナックなどの対個人サービス、文教施設、専門小売店の順であった。職業別にみると会社員、主

よって、住居地区内及び周辺地区での多様な産業（地域施設）の自然発生を誘導するような、環境（土地利用、制度、組合など組織化等）の創造を講じていくことが重要と考えられる。ポータウン内居住者の中で、地区内の地域施設に満足している人は殆んどいないといってよ